

新旧施設の大気汚染物質の発生量について

既存施設と新施設において、発生する大気汚染物質を比較すると下表のとおりです。

新施設では処理能力が大きくなるため、排出ガスの排出量は多くなりますが、一方で、排出ガスの濃度は既存施設よりも大幅に改善されるため、大気汚染物質の発生量は大幅に減少します。

また、ごみ量の減少に伴い、既存施設は1炉稼働が主体となっていますが、この値と比較しても、新施設の値は小さく、現状よりも大気環境は良くなるものと考えます。

表 新旧施設の大気汚染物質の発生量

物質	単位	既存施設 【ストーカ式】	新施設	
			【シャフト炉式】	【流動床式】
ばいじん	t/年	35.6 (17.8)	14.9	14.3
塩化水素	t/年	311.2 (155.6)	24.2	23.3
硫黄酸化物	t/年	165.2 (82.6)	42.5	40.8
窒素酸化物	t/年	274.0 (137.0)	91.6	88.1
ダイオキシン類	g/年	0.4 (0.2)	0.1	0.1

注) 新施設は3炉稼働の数値、既存施設は2炉稼働の数値で、()内は1炉稼働の値

※算定条件は、下表のとおりです。

項目		単位	既存施設 【ストーカ式】	新施設	
				【シャフト炉式】	【流動床式】
処理能力		t/日	300t (150t×2 炉)	585t (195t×3 炉)	585t (195t×3 炉)
稼働炉数		炉	2	3	3
1 炉 あ た り	湿り排出ガス量		m ³ _N /時	41,360	63,000
	乾き排出ガス量		m ³ _N /時	33,088	53,100
	酸素濃度		%	12	8.5
	汚 染 物 質 濃 度	ばいじん	g/m ³ _N	0.08	0.01
		塩化水素	ppm(g/m ³ _N)	430(約 0.700)	10(約 0.0163)
		硫黄酸化物	ppm(g/m ³ _N)	130(約 0.3714)	10(約 0.0286)
		窒素酸化物	ppm(g/m ³ _N)	300(約 0.6161)	30(約 0.0616)
ダイオキシン類		ng-TEQ/m ³ _N	1	0.1	
運転日数		日/年	280		
運転時間数		時間	24		